

著書・学術論文等

堂野能伸

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌または発表学会等の名称	概要 (200 字程度)
遊楽と信仰の文化学	共著	2010 年 10 月	森話社	『寺社縁起の文化学』で提起された「縁起学」の視点を引き継ぎ、聖と俗が渾然一体となった縁起の様相をより広汎にさぐる。開帳・巡拝・参詣などの場における略縁起のありようを考察し、絵巻や曼荼羅などの図像、のぞきからくりや浄瑠璃などの芸能に潜む「縁起的なるもの」を見定める。「第 3 章[コラム]縁起や伝承を描くということ」を担当。
はりま伝説夢物語	共著	2013 年 11 月	神戸新聞出版社	兵庫県播磨地域に残る播磨国風土記、峯相記、播磨鏡など古来より記された伝説や伝承を題材に、2008 年～2014 年まで神戸新聞に連載されていたカラー挿絵の付いたコラム「はりま伝説夢物語」の中から、城下町姫路や播磨一円の不思議な話、怖い話、笑い話、ちくりと風刺のきいた話から 80 話と、書下ろしの 20 話をまとめ出版。
はじめて学ぶ生物文化多様性	共著	2020 年 2 月	講談社	現在語られる自然環境保全と生物多様性だけでは限界があり、それぞれの地域だけでの解決していくことは不可能となっている。それらの問題を解決するための新たな概念「生物多様性+文化多様性=生物文化多様性 (Biocultural diversity)」という、自然と文化の融合を基本とした環境の捉え方を解説し、この概念をもとに、地域社会の組織づくりやしくみの構築など、地域の資源を活かして地域再生や地域創生を効果的に行う方法を、マンガを交えて紹介。
人類 50 億年双六	共著	2010 年 1 月	シンポジウム「人類はなぜ宇宙へ行くのか」 京都大学宇宙総合学研究ユニット	楽しみながら地球と人類の未来を長期的な視点で考えてもらうきっかけを作ることを目的に、地球の起こりから人類の進化発展、これから起こるであろう科学の進歩と文化の在り方などを考え、選択しながら学ぶ教材として開発。京都大学宇宙総合学研究ユニットと京都精華大学の連携プロジェクト「宇宙とアート」の一環として制作。
宇宙箱舟ワークショップブック (ボードゲーム)	共著	2011 年 3 月	京都大学宇宙総合学研究ユニット・京都大学総合博物館	大学教職員や大学生が、小学校、中学校、高等学校の教員と共同で、「宇宙に引っ越しするならどんな生き物連れて行く?」というある種極端な舞台を設定しながら、普段の生活の中では見えにくい現代の問題をみんなで考えるという教育プログラムを開発、ボードゲーム化。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌または発表学会等の名称	概要 (200 字程度)
教材としての宇宙：答えのない課題を扱う教育プログラム『宇宙箱舟ワークショップ』（査読有り）	共著	2013 年 3 月	宇宙航空研究開発機構 研究開発報告	大学教職員や大学生が、小学校、中学校、高等学校の教員と共同で開発した『宇宙箱舟ワークショップ』は、「宇宙に引っ越しするならどんな生き物を連れて行く?」というある種極端な舞台を設定しながら、普段の生活の中では見えにくい現代の問題をみんなで考えるという教育プログラムである。本稿では、この多様な答えを許容する教育プログラムの開発過程を報告。
答えのない課題を扱う教育プログラムの開発 ～『宇宙箱舟ワークショップ』を事例に～(研究発表(口頭発表))	共著	2011 年 8 月 23 日	日本科学教育学会第 35 回年会 (東京工業大学) 日本科学教育学会年会論文集	大学教職員や大学生が、小学校、中学校、高等学校の教員と共同で開発した『宇宙箱舟ワークショップ』は、「宇宙に引っ越しするならどんな生き物を連れて行く?」というある種極端な舞台を設定しながら、普段の生活の中では見えにくい現代の問題をみんなで考えるという教育プログラムである。本稿では、この多様な答えを許容する教育プログラムの開発過程を報告。
科学的には答えの出ない問いをみんなで考える：宇宙箱舟ワークショップ開発過程(研究発表(口頭発表))	共著	2011 年 11 月 26 日	平成 23 年度日本理科教育学会近畿支部大会 (滋賀大学教育学部附属中学校) 日本理科教育学会近畿支部大会(大阪大会)発表要旨集	大学教職員や大学生が、小学校、中学校、高等学校の教員と共同で開発した『宇宙箱舟ワークショップ』は、「宇宙に引っ越しするならどんな生き物を連れて行く?」というある種極端な舞台を設定しながら、普段の生活の中では見えにくい現代の問題をみんなで考えるという教育プログラムである。本稿では、この多様な答えを許容する教育プログラムの開発過程を報告。
宇宙箱舟ワークショップの開発・実践報告(研究発表(口頭発表))	共著	2011 年 12 月 1 日	第 55 回 宇宙科学技術 連合講演会 (愛媛県民文化会館 (ひめぎんホール))	大学教職員や大学生が、小学校、中学校、高等学校の教員と共同で開発した『宇宙箱舟ワークショップ』は、「宇宙に引っ越しするならどんな生き物を連れて行く?」というある種極端な舞台を設定しながら、普段の生活の中では見えにくい現代の問題をみんなで考えるという教育プログラムである。本稿では、この多様な答えを許容する教育プログラムの開発過程を報告。
Development of Hands-on Activities for Teaching biodiversity and cultural diversity: “Space Ark Workshop.”	共著	2012 年 3 月 20 日	The 5th EAFES (East Asian Federation of Ecological Societies) International Congress (Ryukoku University, Otsu)	大学教職員や大学生が、小学校、中学校、高等学校の教員と共同で開発した『宇宙箱舟ワークショップ』は、「宇宙に引っ越しするならどんな生き物を連れて行く?」というある種極端な舞台を設定しながら、普段の生活の中では見えにくい現代の問題をみんなで考えるという教育プログラムである。本稿では、この多様な答えを許容する教育プログラムの開発過程を報告。
現代文化と生物多様性の幸せな関係 「スズメと人が創る現代社会」	共著	2019 年 2 月	「野生生物と社会」学会 23 巻 2 号	野生生物と人のかかわりを考える事例として、人に一番身近な動物であるスズメの生活は、人の文化圏の中にある選択をすることで しかし、  スズメと電柱や都市形成など現代文化と生物の関係をマンガで紹介。